

## ポスター発表 | 多職種2

■ 2025年7月11日(金) 11:00 ~ 12:00 ■ ポスター会場 (文化会館棟 2F 第1・2ギャラリー) 2

**ポスター発表 (II-P01-2)**  
**多職種2**

座長：仁尾 かおり (大阪公立大学大学院看護学研究科)

座長：吉田 佳織 (大阪母子医療センター 看護部)

**[II-P01-2-09] 摂食障害で入院加療を行った児の心血管合併症の検討**○森崎 敦夫<sup>1</sup>, 三浦 大<sup>2</sup>, 前田 潤<sup>2</sup> (1.東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科, 2.東京都立小児総合医療センター 循環器科)

キーワード：摂食障害、徐脈、低血圧

【背景】摂食障害は思春期男児の0.5%, 女児の1-2%に生じる精神疾患であり, 10%と死亡率が高い. 死亡の半数は自殺だが, 残りは心血管合併症によるものが多い. 摂食障害における心血管合併症は徐脈, 低血圧, QT間隔の変化などが指摘されている一方でその実態の報告は少ない.

【方法】2022年1月1日から2024年12月31日に東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科に摂食障害の診断で入院した149例のうち選択基準(転入症例を除いた身体合併症のない初回入院例のうち血液検査, 心電図検査および心拍数モニタリングを実施)を満たした59例の年齢, 性別, 体重の推移, 標準体重比, 入院3日以内に実施した検査および結果, 転帰について後方視的に検討した.

【結果】56例が女児(94.9%)であった. 入院中の死亡例はなかった. 平均年齢は $13.2 \pm 2.0$ 歳であった. 標準体重比は $67.7 \pm 8.6$  %で, 過去の最大体重からの減少は $-9.6 \pm 5.5$  kg, 直前1か月からの減少は $-1.1 \pm 1.6$  kgであった. 血液検査と心電図検査, 心拍数モニタリングは全例に実施されていたが, 心臓超音波検査は全例実施されていなかった. 心拍数モニタリングは $44.7 \pm 9.0$  bpm, 収縮期血圧は $87.8 \pm 9.4$  mmHgであった. 収縮期血圧が90 mmHg以下は40例(67.8%), 80 mmHg以下は15例(25.4%), 70 mmHg以下は3例(5.1%)だった. 心拍数モニタリングで60 bpm以下は57例(96.6%), 40 bpm以下は22例(37.3%), 30 bpm以下の徐脈は2例(3.4%)だった. 心電図検査では $55.6 \pm 12.6$  bpm, QTc  $425.6 \pm 44.2$  msec, Bazett式による補正值(QTcB)  $405.7 \pm 23.9$  msecであり, QTcBが460 msec以上は1例のみであった. 血液検査ではBUN  $15.6 \pm 7.1$  mg/dL, Cre  $0.63 \pm 0.14$  mg/dL, Na  $140.5 \pm 2.4$  mEq/L, K  $4.0 \pm 0.4$  mmol/L, Ca  $9.3 \pm 0.4$  mg/dL, IP  $3.9 \pm 0.6$  mg/dL, Mg  $2.3 \pm 0.2$  mg/dLであった.

【結語】摂食障害の児には高度の徐脈や低血圧をきたす一群が含まれるが, QT間隔が延長している症例は少なかった.